

薬学教育モデル・コア・カリキュラム (令和4年度改訂版) 概要

薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）概要

- 「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を生涯にわたって研鑽し獲得するため、6年制薬学教育で卒業時までには学ぶ基礎薬学、医療薬学、衛生薬学、臨床薬学等の知識や技能を修め、薬剤師として社会で活躍できる能力の修得を目的に作成されている
- 薬剤師は、医薬品の製造、調剤、供給における任務を遂行し、適切に品質管理された医薬品を過不足なく効率的に国民に提供するとともに、広く薬事衛生、患者・生活者の健康増進等に寄与する社会的責務を担うことが求められる
- 各大学が策定する「カリキュラム」のうち、全大学で共通して取り組むべき「コア」の部分であり、学修時間数の7割程度を目安としている（残り3割程度は、3つのポリシー等に基づき各大学が自主的・自律的に編成）
- 令和4年度は、医療人として共通の価値観を共有すべく、医学・歯学・薬学で同時に改訂

キャッチフレーズ

「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」



人口構造の変化、多疾患併存、多死社会、健康格差、増大する医療費、新興・再興感染症や災害リスクなど様々な問題に直面し、これらの社会構造の変化は、年を経るにつれ更なる激化が見込まれている。このように社会に多大な影響を与える出来事を的確に見据え、多様な時代の変化や予測困難な出来事に柔軟に対応し、生涯にわたって活躍し、社会のニーズに応える医療人の養成が必須である。

そのためには、医療者としての根幹となる資質・能力を培い、多職種で複合的な協力をを行い、多様かつ発展する社会の変化の中で活躍することが求められる。また、患者や家族の価値観に配慮する観点や利他的な態度が重要である。さらには、ビッグデータや人工知能（AI）を含めた医療分野で扱う情報は質も量も拡大・拡張しており、これらを適切に活用した社会への貢献も求められる。

薬学教育モデル・コア・カリキュラム 改訂の基本方針

1. 大きく変貌する社会で活躍できる薬剤師を想定した教育内容
2. 生涯にわたって目標とする「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を提示した新たなモデル・コア・カリキュラムの展開
3. 各大学の責任あるカリキュラム運用のための自由度の向上
4. 臨床薬学という教育体制の構築
5. 課題の発見と解決を科学的に探究する人材育成の視点
6. 医学・歯学教育のモデル・コア・カリキュラムとの一部共通化



薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）概要

大項目 A

薬剤師として求められる基本的な資質・能力

- 「医師/歯科医師/薬剤師に求められる基本的な資質・能力」を原則共通化
- 薬剤師として求められる10の基本的な資質・能力とその説明文を記載



1. プ ロフェッショナル イズム	2. 総合的に患者・生活者 をみる姿勢	3. 生涯にわたって共に学ぶ 姿勢	4. 科学的探究	5. 専門知識に 基づいた問題 解決能力	6. 情報・科学 技術を活か す能力	7. * 薬物治療の 実践的能力	8. コミュニケー ション能力	9. 多職種連携 能力	10. 社会における 医療の役割の 理解
-------------------------	------------------------	----------------------	----------	----------------------------	--------------------------	------------------------	--------------------	----------------	----------------------------

* 医学/歯学は「患者ケアのための診療技能」

大項目 B～G

学修目標ほか

- 大項目の学修目標（卒業時の標準的なアウトカム）
- 基本的な資質・能力とのつながり
- 評価の指針（学修目標への到達を評価する視点）

小項目

ねらい

- 他の項目との関連性を明記
- 関連の強い項目を列挙

学修目標

- 個別の知識や技能を概念的に把握する目標
- 知識や技能を活用して判断し行動する目標

学修事項

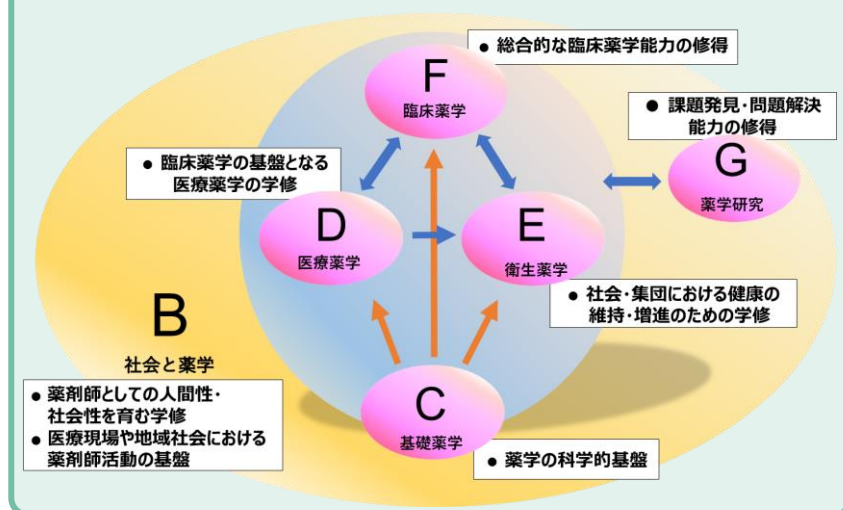
- 学修目標を達成するために必要な具体的な知識や技能・行為等
- 大学がカリキュラム作成に参考とする事項

大項目A、B～G、DPの関係

A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力
（生涯にわたって目標にする）

各大学のディプロマ・ポリシー（DP）
（卒業時に評価可能でAにつながるものとして策定）

大項目B～G



薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）の概要 平成25年度改訂版との比較

薬学教育モデル・コアカリキュラム （平成25年度改訂版）

- 薬剤師として求められる基本的な10の資質
・卒業時に必要とされる資質を記載

（一部新設）

- 病院・薬局における実務実習で修得する目標と大学で実務実習前後に修得する目標を区別
- 近年の薬剤師の役割と業務の変化に十分に対応できていない
（例）
 - ・感染症とその治療薬、微生物学が中心
 - ・解剖・生理学に係る記載が少ない
 - ・情報・科学技術の活用に係る記載が少ない
 - ・課題の発見と解決を科学的に探求する人材育成が十分でない

- 学修成果基盤型教育に係る記載が不十分
・「基本的な資質」を身に付けるための一般目標（GIO）を設定し、GIOを達成するための詳細な到達目標SBOs(1073項目)を記載
・SBOsが細部にわたって記載されており、大学独自の内容をカリキュラムに取り入れる余裕がない



薬学教育モデル・コア・カリキュラム （令和4年度改訂版）

- 薬剤師として求められる基本的な10の資質・能力の改訂
・生涯にわたって研鑽していくことが求められる資質・能力
⇒2つ資質・能力を追加し、従来の「薬剤師としての心構え」と「患者・生活者本位の視点」を「プロフェッショナリズム」として発展
〈新たに追加した資質・能力〉
 - ・総合的に患者・生活者をみる姿勢
 - ・情報・科学技術を活かす能力
- 大きく変貌する社会で活躍できる薬剤師を想定した教育
・超高齢社会、情報科学技術の進展等に対応するとともに、大学と医療現場がより一層連携して教育を行うため、以下の観点から学修目標を整理
 - ・薬物治療を個別最適化する能力の向上（社会的背景等を把握し、全人的に捉える）
 - ・多職種連携能力の向上
 - ・医療マネジメント（医療安全等）への貢献
 - ・地域医療・疾病予防への貢献
 - ・感染症の予防・まん延防止に係る内容の充実
 - ・保健統計・疫学的解析の充実
 - ・解剖・生理学に係る記述の明確化
 - ・情報・科学技術を活用する能力（情報等に関する倫理とルール、医療等への活用）
 - ・研究活動の実践による課題発見・解決能力の向上
- 学修成果基盤型教育の更なる展開
 - ・具体的事実を覚えるだけでなく、新たに直面する課題や問題の解決に生かす学力を身に付ける観点から学修目標(約350項目)を整理
 - ・「学修目標」に到達するために必要と考えられる知識や行為等について参考となる事項を「学修事項」として列記